# 麹町中学校だより

第５号　　令和８年６月15日発行　　校長　藤田　修史

教育目標

自主性　社会性　創造性

## 歴史・文化を学び　未来を創造する修学旅行

５月２７日（水）～29日（金）の３日間、第３学年生徒は、修学旅行でした。今年度から飛行機を利用し、長崎・福岡への旅でした。１日目は、長崎平和公園、原爆資料館の見学、２日目は、班ごとに長崎市内の見学、３日目は、太宰府天満宮を訪れることを通して、現代から近代、近世、中世、古代と、歴史をさかのぼる旅をしました。特に、２日目の班別行動では、地図をたよりに班で協力し合い、計画した見学先を訪問し、直接、長崎の歴史や文化に触れる貴重な時間を過ごしました。見学先への道筋に迷った際に、現地の人と対話することも、皆さんにとってはよい思い出となったことでしょう。

２泊３日の修学旅行を通して、数多くのことを学ぶことができたと思います。記録だけでなく記憶に残った旅を、これからの中学校生活、人生に生かしていくことを期待しています。







### 解散式　修学旅行実行委員長の言葉（一部）

出発前、私は「校長先生の言葉」を引用して、この旅は「歴史をさかのぼるタイムマシンだ」というお話をしました。皆さん、長崎の街を巡りながら、たくさんの発見や疑問、そして班の仲間との対話は生まれたでしょうか。特に、今回の旅の大きな目的でもあった「平和に関する学習」では、私たちは原爆の恐ろしさや、かつてこの地で起きた悲しい歴史から、目を背けてはならない過去を深く学びました。被爆地である長崎の過去に直接触れたからこそ、今私たちがこうして仲間と笑顔で旅をできている日常が、どれほど恵まれているかを感じたはずです。過去をただ悲しむだけでなく、「これからの平和な未来をどう創造していくか」を、一人ひとりが自分の問題として考える大切なきっかけになったのではないでしょうか。

そして、今回の修学旅行には「スマホの持ち込みが絶対に禁止」という、今の私たちにとってはかなり厳しいルールがありました。最初は不便に感じた人も多かったと思います。しかし、画面から目を離したからこそ、移動中の飛行機の窓から見える本物の空の景色や、長崎の美しい街並み、そして何よりも、隣にいる友達の笑顔や何気ない会話に、いつも以上に集中できたのではないでしょうか。デジタルから少し距離を置く「デジタルデトックス」ができたからこそ、私たちは目の前にある平和な景色や、仲間との時間を五感全てで、全力で味わうことができたのだと思います。

不便さを楽しさに変え、多くのことを学び、お互いを思いやって過ごしたこの３日間の経験は、校長先生の言葉どおり、私たちにとって「一生涯にわたり記憶に残る、最高の思い出」になりました。

この旅を支えてくださった先生方、添乗員さん、そして一緒に最高の時間を送り届けてくれた学年のみんなに、実行委員長として心から感謝します。本当にありがとうございました。

# 第１回定期考査に向けて

早いもので１学期も後半に突入しました。6月 22 日（月）～24 日（水）は、第１回定期考査が実施されます。それぞれ進学、進級して最初のテストとなります。定期考査の２週間前となる６月８日（月）には、各学級において、試験範囲表と学習計画表が配布され、生徒は、計画的に学習に取り組み始めました。

放課後は、合同教室を使用して近隣の大学生が勉強のサポートをする「放課後学習教室」を実施しています。また、火・木・金曜日は、図書館も午後４時 30 分まで開館し、勉強ができる環境を整えています。ぜひ参加してください。



【放課後学習教室の様子】

# 屋上庭園を利用した野菜・米作り ～Ｉ組　理科・生活単元学習～

Ｉ組では、理科と生活単元学習を関連させ、５階の屋上庭園で野菜や米の栽培に取り組んでいます。理科では植物の特徴や育つために必要な条件について学習し、生活単元学習では栽培から調理までの活動を通して食べ物の大切さを学習しています。

生徒たちは、作物の様子を観察しながら水やりや草取りなどの世話を行い、「前より大きくなった。」、「新しい葉が出ている。」など、成長の変化に気付いて嬉しそうに報告しています。土に触れながら苗を植えたり世話をしたりする中で、植物への関心も深めています。

今後は、育てた作物を使った調理活動も予定しており、生徒たちはその日を楽しみにしながら、日々の世話や観察に意欲的に取り組んでいます。







# 環境科学部の取組　～東京ガーデンテラス紀尾井町ビオトープにてホタルの放流～

環境科学部は、５月 14 日（木）、６月４日（木）の２日間にわたって、東京ガーデンテラス紀尾井町ビオトープにてホタルの幼虫の放流を行いました。

この活動は、「元々皇居に生息していたヘイケボタルの子孫を守っていく」という目的で行われており、当日は、都市における生態系保全活動を行っている西武造園株式会社の担当者から都市の生態系の様子やホタルの生態などの話を伺いました。生徒たちは、初めて見るホタルの成虫や幼虫、蛹などを観察し「思ったよりも小さかった。」や「都心でホタルが見ることができることに驚いた。」など、それぞれが率直な感想を語り合いました。 見頃は、梅雨が明ける７月上旬頃とのことです。都会の中心で、生徒が放流したホタルとともに自然を感じてみてはいかがでしょうか。





